



世界緑内障週間

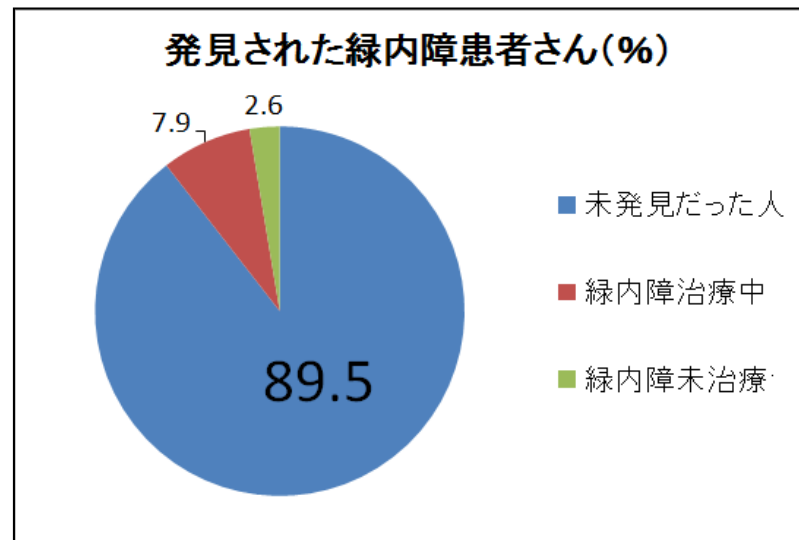
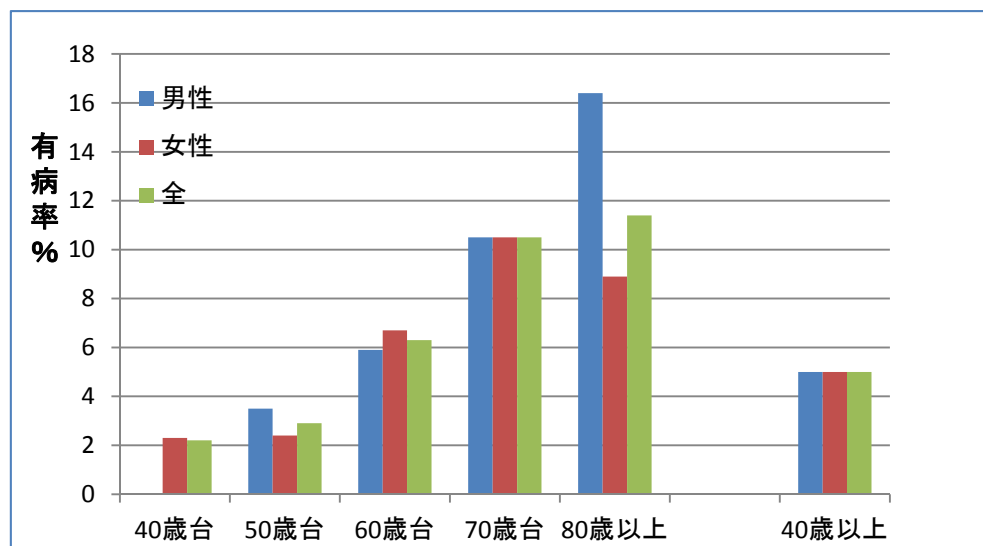
World Glaucoma Week



緑内障は、世界中の国で、中途失明の原因疾患として上位にランクされている重要な病気です。我が国でも緑内障は現在失明原因の第一位です。一方で、治療方法の進歩により、早期に診断された緑内障は高度視機能障害をきたす確率は今後大幅に低下していくと考えられています。緑内障という病気を知っていただくことが早期発見につながることを考え、世界緑内障連盟 (World Glaucoma Association) は、毎年、3月に世界緑内障週間として、緑内障という病気の啓発活動を世界中で展開します。この期間のことを、**世界緑内障週間World Glaucoma Week**といいます。

日本の疫学調査(多治見スタディ)では、40歳以上の人口の約5% (20人に1人)に、緑内障がある事がわかりました。そして年齢とともに、患者さんの数は増えていきます。症状の特徴としては、進行するまでは視力が落ちないので、ご自分の病気に気づかない人が多いことが知られています。そして、一度欠損した視野は、元に戻ることはありません。早期の発見・管理が必要です。そして、治療を開始したら、継続する事が大切です。眼の病気は、眼の検査をしないと発見できません。早期発見には、眼の定期的な検診が必要です。

40歳以上では20人に1人の方は緑内障に罹っており、その89.5%が気づいていなかったと報告されました(多治見スタディより)



眼の病気の早期発見のために、眼の定期健診を受けましょう！

日本緑内障学会
<http://www.ryokunaisho.jp/>